



にっぽんのお正月！



日づけがひとつ変わるだけなのに新しい年を迎えるとしげんと気持ちが引き締まります。

門松, 初詣, しめ飾り, おせち, 鏡餅など・新年にちなんだ“ことば”や“ならわし”が数えきれないくらいあります。日本人にとって「お正月」は特別な意味をもっています。「今年も豊作でありますように」「新しい年も、一家揃って幸せに暮らせますように」「我が家に幸せの神様が下りてきますように」願いと感謝をこめてお正月の準備をすると楽しさが増すように思います。

今回は図書館にある「お正月関連」「おせち料理の本」等を紹介します。

のぞみ幼稚園の発表会で読み聞かせ！

12月8日(日)のぞみ幼稚園の発表会で園児9名と会場のお客さん(約60名)と一緒にことば遊びや大型絵本(はらぺこあおむし)の読み聞かせをして楽しい時間を過ごしました。

子ども達は「演技の間の休息に絵本もいもんだ」と思ってくれたでしょうか？



書名	一	児	幼	備考
日本人のしきたり	○			飯倉晴武/編著
日本の年中行事百貨	○			岩井宏寛/監修
おせちとお正月料理 165 点	○			東京:ブテック社
有元家のおせち作り	○			有元葉子/著
おせち基本帳	○			い後 喜光/著
お正月さんありがとう		○	○	内田麟太郎/作
正月はなぜめでたいか	○			岩井宏寛/著
小さなお重のおせちとお正月のつまみ	○			田中優子/著
なまはげ正月 (創作民話絵本)		○	○	さねとう あきら/文
クリスマスとお正月飾り	○			東京:日本ヴォーグ社
もみのき山のお正月		○	○	渡辺 有一/作
おもちのきもち		○	○	かがくいひろし作

おはなし会

★毎週土曜日 午後 2:00~2:40

《1月のミニ映画》

4日 ティビー少年と愛犬ゴライアス
11日 きんいろのしか
18日 ハチ公物語
25日 福お内! 鬼は外

図書館カレンダー (1月)

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※ [] は、休館日です。

H25 年	11 月の貸出冊数	4,903 冊
H25 年度	貸出冊数累計	36,189 冊
H25 年	11 月の利用来館者数	1,784 名
H25 年度	利用来館者累計	16,634 名

※ 冬休みミニ図書館フェスタ<12月21日(土)>
※ 古本市は12/21(土)~平成26年1/5(日)まで..

元旦

喜界高校生職場体験学習 (12/3~12/6)

喜界高校2年生酒井亮太郎君・恵畑はやと君・橋川桃子さん・竹内夢希さんの4名は図書館で体験学習をしました。

カウンター業務をはじめ、本の配架やブックコーティング・絵本の読み聞かせ・ペーパーアート人形製作等の図書館業務を数多く体験しました。窓ふきや図書館周りの清掃も行いとてもきれいになりました。来館者に気持ちよく利用してもらえよう。

体験終了後、生徒達は「図書館の仕事は予想以上にたくさんあった。でも頑張れたしとても楽しかった」と感想を話しました。



喜界島の謎・幻の時代（古代より近世の世界） ～先月号より～

また、沖縄の久米島北西部の下地原鍾乳洞から1万5千～2万年前の化石人骨が発見され、宮古島の中南部上野村のピンザアプから2万5千年前後の化石人骨が発見されている。また、沖縄県島尻郡具志頭村（ぐしかみそん）港川から1万8千年前後の人骨「港川人」が発見されている。この港川人は、中国南部の柳江で発見された「柳江人」に類似しているといわれ、いまから7千年前、日本に定住していたアイヌに北方へ押し出されたオホーツク海土器時代の先住者といわれている。「コロポックル」（アイヌ語。フキの葉の下に住む人の意。坪井正五郎は、日本列島先住民とみて、アイヌに追われたと主張した。《広辞苑より》）のような背丈の低い幻の人々であるといわれている。

更に、沖永良部島知名町の中甫洞穴から爪形紋土器と九州系の市来式土器がともなって出土したので、九学会がこの土器を調査したところ、北は長崎県の島原、屋久島の一湊貝塚、大島笠利の宇宿貝塚、徳之島の面縄貝塚、南は、沖縄の浦添貝塚まで及んでいるという。これらは、縄文時代の後期、3世紀に属するといわれている。遺跡や出土品について詳しく記すと、昭和30年の夏から九学会の考古学班が3年間にわたり、奄美や沖縄地方の発掘調査を行い大島北端の「あやまる岬」近くの笠利町万屋と赤木名の中程にある砂丘の宇宿貝塚を発掘したところ、この貝塚に住居跡とみられるもののほか、土器、石器、骨の角や牙などが出土している。

喜界島では、島の西方に位置し大島の笠利町宇宿と最短距離にある荒木の小学校付近の砂丘遺跡が宇宿上層期のものであるという。荒木遺跡からは、出土した人骨の腕に巻き貝を輪切りにした貝輪やウス玉類を副葬（生前の愛用品や埋葬用の特性品を埋葬）し、付近から槌石（物を打ち砕いた石）、沈線文（うすい線）を施した宇宿縄文土器片（下層式）のものが出土している。 文責（登山 典壽）（12月号に続く）

引用文献資料： 南島郷土誌 倭の古代からワチャシマ・ワンナムラまで 井上 忍 著

あたらしい本



▲こどもの本▼

- ☆ バラの城のゆうれい 斉藤 洋 著
- ☆ こやぶ医院は、なんでも科 柏葉 幸子著
- ☆ 戦争がなかったらー3人のこどもたち10年の物語ー
- ☆ 田んぼの不思議（自然と生きる）安室 知 著
- ☆ なんてだじゃれなお正月 石橋 洋司 著
- ☆ だれもしらないヒーロー あべ 弘士 文
- ☆ こうくとちいさなゆきだるま はせがわさとみ 文



▲おとなの本▼

- ☆ ノボさんー小説正岡子規と夏目漱石 伊集院 静著
- ☆ 五峰の鷹 安部 龍太郎 著 小学館
- ☆ 三陸の海 津村 節子 著 講談社
- ☆ 妻が椎茸だったころ 中島 京子 著 講談社
- ☆ 私のなかの彼女 角田 光代 著 新潮社
- ☆ はなとゆめ 沖方 丁 著 KADOKAWA
- ☆ 存在しない小説 いとう せいこう 著



《よねちゃんのおすすめの一冊》 「白い街 あったかい雪」 鎌田 實 文・小林 豊 絵 ポプラ社

1986年4月26日。ウクライナ共和国のチェルノブイリで原子力発電所の事故がありました。この絵本の主人公は、ウクライナのお隣の国ベラルーシのアンドレイ君。白い雪の街で、病気の子どものために、パイナップルを探す日本人が、あったかな連鎖をおこした本当のお話です。チェルノブイリでもフクシマでも、子どもたちが見えない放射能におびえています。二度とこんな悲劇を起こしてはいけません。そんな思いがこもった一冊です。この絵本の雪は、とってもあたたかいです。絶望を希望にかえた日本人のこと、今こそしてほしい。著者の熱い思いを感じてみて下さい。